

○課題文について

課題文は、菅野仁『教育幻想 クールティーチャー宣言』(2010年 筑摩書房)より引用して用いた。

○設問1 傍線部アで、筆者は「『型』を伝えることの大切さ」について述べていますが、それはどういうことですか。課題文に即して二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「型」とは「基本的な所作」であることと、「型」の大切さを「再発見」することについて触れられていて、精度の高い文章で記述したものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「型」を伝える大切さなど、一つの事柄のみの説明で終わるもの、本文中の文言を羅列するに留まり、文章構成力に欠ける解答も見られた。

○設問2 傍線部イで、筆者は「心を動かすために『心の教育』とか何か言うのではなく、『行い』から入るということをあえてやってみる」と述べていますが、これについて、あなたはどのように考えますか。課題文を踏まえながら、自分の体験や見聞をまじえて、六〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。

「型」を伝えることの大切さについて述べながら、「まず、体験してみることの価値」について触れたうえで、「行い」から入ることと、「新たな価値が見出されること」について、論理的な文章構成で述べたものに、高い評価を与えた。

【講評】

自分の体験や見聞を根拠としながら、「行い」から入ることの大切さについて述べられている解答が多く見られたが、「新たな価値が見出されること」という筆者の主張についてまで、触れられた文章は少なかった。